

小谷 賢太郎 システム理工学部 機械工学科 人間工学研究室

Point1 本研究の概要

アンケートによるヒトの心理的レジリエンス（ストレス脆弱性）の推定は、意図的に結果を操作できるリスクなどがあり、確度に限界があることが知られています。本技術は、タブレットやスマートフォンを用いて、簡単な視認タスクを行っている際の視線データを心理学および神経学的メカニズムをもとに分析し、高確度の心理的レジリエンス推定を実現したものです。

Point2 応用可能な分野

- ・ 本手法を用いることで、タブレットやスマートフォンを用いて日々のレジリエンスの変動を手軽に知ることができるようになります
- ・ 意図的に結果を操作できないので、アンケートと併用してメンタル不調者の早期発見につなげやすくなると期待しています
- ・ デリケートな質問への回答が不要ですので、結果共有しやすく、ケアすべき人とのコミュニケーションにも使えると考えています

Point3 連携を希望する業種等

- ・ メンタル不調の予兆発見ツール開発に取り組んでおられる企業
- ・ アンケートの確度向上を目指しておられる企業
- ・ タブレットやスマートフォンを用いた視線情報の収集・分析・応用を検討している研究や開発に携わる方々

詳細な研究・技術シーズは次ページへ

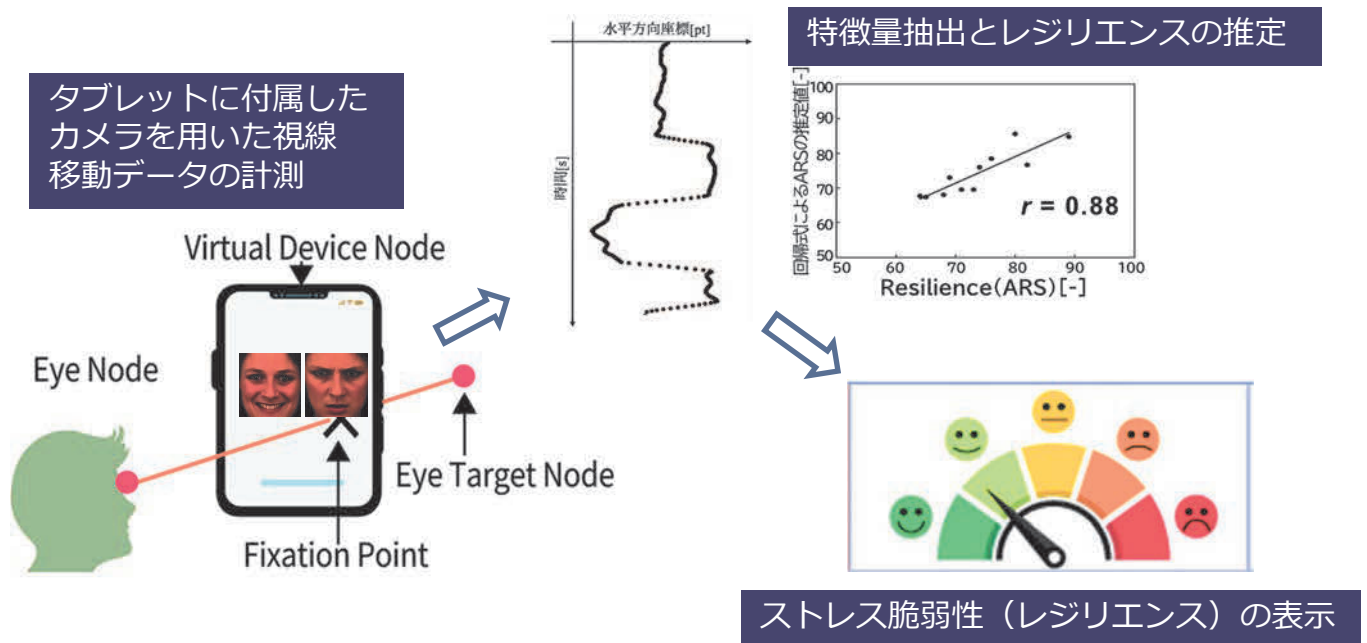
用途・応用分野

タブレット端末やスマートフォン上で画像を視認する際に現れる注意バイアスから、ヒトの心理的レジリエンス(ストレス脆弱性)を推定するシステム。メンタル不調の早期発見に応用できると考えている。

本技術の特徴・従来技術との比較

これまで、心理的レジリエンスの推定にはアンケートによる手法しかなく、繰り返しの計測や詐病のリスクが存在していた。このようなメンタル不調者を十分に把握できない現状に対して、視線処理に関わる心理学および神経学的メカニズムの存在による視線解析より、無意識状態での計測を実現。本手法を用いることで、タブレットやスマートフォンを用いて日々のレジリエンスの変動を手軽に知ることができるようになると考えている。

技術の概要



特許・論文

<特許>

「心理的レジリエンス推定方法、心理的レジリエンス推定装置および制御プログラム」

(特願2025-010013)

研究者

小谷 賢太郎
システム理工学部 機械工学科
人間工学研究室

お問い合わせ先

関西大学 社会連携部 産学官連携センター

TEL: 06-6368-1245

MAIL: sangakukan-mm@ml.kandai.jp